＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	1490900030
法人名	有限会社　ランドマーク
事業所名	グループホームあすなろ弐番館
訪問調査日	平成19年12月7日
評価確定日	平成20年1月31日
評価機関名	株式会社　R-CORPORATION

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1490900030
法人名	有限会社 ランドマーク
事業所名	グループホームあすなろ弐番館
所在地	223-0058 横浜市港北区新吉田東6－15－14 （電 話）045-549-0228

評価機関名	株式会社　R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】（平成19年11月25日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　19 年 3 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	人	常勤　人，非常勤　人，常勤換算　人

（2）建物概要

建物構造	造り
	階建ての　階 ～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	円		その他の経費（月額）	円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	㊒（　円） 無		有りの場合 償却の有無	㊒／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（11月25日現在）

利用者人数	名		男性　名	女性	名
要介護1	名		要介護2	名	
要介護3	名		要介護4	名	
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均　歳	最低	歳	最高	歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社ランドマークの代表者、ホーム長のお父様が社会福祉協議会の港北区会長だった事情もあり、区の要請もあり、土地の有効活用と地域への貢献なども視野に入れ、会社を設立しグループホームを展開した。もともと区の要請とお父様の地域でのあすなろ連合会の活動と、永くこの地に住んでいた実績から地域にも歓迎され、本来、2つのグループホームを並べて建設することは許可を得るのが難しい中で2つ目のあすなろ弐番館も支障なく認可された。ホームの敷地は広く、ここあすなろ弐番館を併設しても広い庭のローン部分の他に実の食べられる樹木（栗、梅、柿、蜜柑、プルーン）樹木が有り、広い畑ではふんだんに野菜が栽培出来るなど恵まれたスペースがある。弐番館建設に当たっては、あすなろの経験を踏まえ、また職員のあすなろの経験を踏まえた意見なども取り入れたためいろいろの工夫が組み込まれている。管理棟はあすなろと共通であり、会議室、職員の休憩室打合せコーナーを活用出来る。1F,2Fの交流もあり、近所の小学校5年生も3ヶ月に1回程度遊びに来る。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** あすなろ弐番館としては今回が初めての外部評価である。あすなろの経験とあすなろで働いた経験を引き継いで弐番館に来ている職員も居るが、弐番館としての体制固めが急務であり、1年間はその体制作りに取り組んだ。あすなろ同様にセンター方式を取り入れ、新規の入居希望者に対してのアセスメントを重視し、管理者、ケアマネジャー等がご自宅に伺い、本人及びそのご家族を出来る限り理解し、それを職員に公開して判定し、職員も納得した上での入居に努めている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** あすなろ同様、評価については体質改善の一環として全員（常勤、非常勤を問わず）で取り組んでいる。プロセス段階での気付きと自分自身のチェックから意識が向上し、業務に対する一体感が生まれたことは大きな成果であった。評価のプロセスでの気付きや結果の指摘事項については今後の改善課題に纏め、改善に取り組んで行く。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は第1回目をあすなろと共催で8月9日に開催した。町内会のメンバーについては「あすなろ連合」から選出した。町内会としては各町内会があり、その上部組織として「あすなろ連合」があり、その「あすなろ連合」はお父様との関係が深く、極めて地域に密着したものである。町内の方以外では新吉田地域包括支援センターの方、ご家族、ホーム関係者が参加している。運営推進会議を設定するかなり前から、あすなろ祭など既に地域との連携があり、運営推進会議はその補完的位置付けとなっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** ご家族へは毎月報告書を作成、報告している。来訪時には状況をお話しし、日常生活・行事の写真を展示し、様子をお伝えしている。不安を感じているご家族に対してはノートの交換や雑談を交えた個別の面談などを心がけ、ご家族のケアにも心を配っている。ご家族は比較的良く訪問され、時には宿泊して行かれるなど良い関係が出来ている。家族会は土、日曜日の昼食を挟んでユニット毎に午前と午後を分け、少人数で意見を出しやすいよう配慮している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** あすなろ同様地域に根付いた発足であり、地域との連携は枚挙にいとまが無いが、町会と合同で行う「あすなろ祭」を筆頭に小学生の総合学習の受け入れ（30名位、あすなろと半々で）研修室での民生委員対象の認知症勉強会、各種ボランティアの受け入れ、地域ケアマネジャーの勉強会サポートなど地域に密着した活動を地域の中核施設として実施している。防災に関しても町内を意識した大量のライフランの備蓄と避難場所の提供などを心がけ地域に貢献したいとの熱い気持ちを持っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業者が地元の住民で、昔からの地域との連携を大切にしながらホームが地域のなかにとけこんだものになるよう理念を作り上げている。ホームの理念に「人々（地域）とのふれあい大切にします」と謳っている。		開所当初よりホームの理念に地域密着を取り入れている。
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」というものを意識して業務にあたり、内部研修の中でも再確認しあうようにしている。玄関の入り口と事務所内に理念を掲示して、常に目にできるようにしている。		折に触れ啓蒙を続けて行く。
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	あすなろ自体が町内会に参加していて回覧板も届いている。地元の小学校と交流会があり利用者とのふれあいができている。地域との連携は枚挙にいとまが無いが、町会と合同で行う「あすなろ祭」を筆頭に小学生の総合学習の受け入れ、研修室での民生委員対象の認知症勉強会、各種ボランティアの受け入れ、地域ケアマネジャーの勉強会サポートなど地域に密着した活動を地域の中核施設として実施している。	○	運営推進委員会の設置では地域の方にメンバーになって頂いており、ホームの現状などを理解している。更には貴重なご意見やアドバイスをいただけるようになっている。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価となるが、常勤・非常勤に関わらず自己評価に取り組んだ。プロセス段階での気付きと自分自身のチェックから意識が向上し、業務に対する一体感が生まれたことは大きな成果であった。評価のプロセスでの気付きや結果の指摘事項については今後の改善課題に纏め、改善に取り組んで行く。		自己評価は今後も常勤・非常勤に関係なく取り組んで行く。
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目をあすなろと共催で8月9日に、第2回目を10月11日に開催した。町内会のメンバーについては「あすなろ連合」から選出した。「あすなろ連合」はお父様との関係が深く、極めて地域に密着したものである。町内の方以外では新吉田地域包括支援センターの方、ご家族、ホーム関係者が参加している。	○	委員会ででた意見・アドバイス等を吸い上げ、ホームの質の向上に活かして行く。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の内容をオープンにしており、市町村の理解を受けていると考える。すでに開所している「グループホームあすなろ」に隣接しての弐番館開所の許可も理解されているからだと理解している。		港北区はホームの見学に来てくれており、ホーム開所にあたり区長の来訪もあり祝辞をいただいている。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の毎月の様子やホームからのお知らせ等を月次報告書に仕上げて家族に送付している。 日常生活や行事での写真をホーム内に掲示していつでも見て頂けるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員は日頃から家族と話やすい雰囲気作りを心がけている。また管理者は希望のある家族と連絡ノートでのやりとりをしている。家族会を各ユニット毎に開き、家族の意見を聞けるようにしている。また、意見箱を用意して自由に意見・苦情を受けられるようにしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット毎に職員を固定して、居室担当を設け利用者との職員の馴染みの関係を作れるようにしている。人事異動がある時は、利用者へのダメージを最小限にした異動を考えて行く。		今後も継続して実施して行く。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤に関わらず研修に参加することを薦め、研修案内等が届いたときには掲示して希望者はいつでも参加できるようにしている。また研修に参加した時にはその報告書を提出してもらい、参加できなかった職員にも情報が共有できるようにしている。全職員を対象に介護教員の有資格者による定期的な内部研修を開いている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。	○	今後は他施設との交換研修を実施していきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）		（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は前もって利用者のアセスメントを読み把握しておき、本人に違和感のないような接し方をするよう努めている。また入居当初は家族の面会を多めにして本人の不安感等を最小限にできるよう協力を得るようにしている。			今後も継続して実施して行く。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を持って接するよう心掛けていて、理念に掲げられている「できることはしていただきます」の通り自信をもって生活できるようにしている。季節の行事や食事作りの時などに利用者から話を聞かせてもらうようにしている。			今後も継続して実施して行く。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1．一人ひとりの把握						
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人の言動から本人の思いに気づき、出来得る限り本人の希望する生活ができるように努めている。		○	毎日の個人介護記録を記入する際も本人の心の奥にある思いに気がつくようにしていきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族との面談ででた家族の思いや・日頃の本人の言動からみえてくる本人の思いをケアカンファレンスで話しあい、そこで出てきた意見や意向を含めた計画作成をしている。職員は利用者の日常生活での気づきが大切であることを認識しそれを活かした計画作成を行っている。			今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は常に職員が閲覧できるようにしてあり、入院等により利用者の状況に変化が起きた時には、その都度改めて変更をしていくようにしている。			今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）		（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)						
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況が重度化したり、終末期になった時を考慮した対応ができるように、医療連携体制を整えて家族や本人の暮らしがで安心して送れるようにしている。			今後も継続して実施して行く。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働						
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに往診医はいるが入居にあたり必ずしもかかりつけ医を変更する必要はなく本人や家族の希望する医療機関への受診が可能になっている。入居前の医療機関へ今も通院している利用者がいる。			今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	弐番館ではまだ終末期を迎え看取った事例がないが、ホームとして対応し得る支援方法を明確にし医師と家族で話し合いその対応を検討している。			医師・家族・職員が同席し話し合いをし、本人や家族にとって最良と思われる支援方法を考え、全員が方針を共有できるようにしている。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重						
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修でテーマとして取り上げ常に職員にその意識をもつようにして、個人情報の漏えいには十分注意するようにしている。ケアの場面でのトイレ介助の際にはプライバシータオルというものを用意している。			常に職員が認識しているように定期的に研修を開くようにしている。また外部研修にも参加するように勧めている。また介護の現場でも声かけする時には注意するようにしていく。さらには現場を離れた場所での会話にも注意を払うよう心掛けている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムや思いを尊重し、できる限りご本人にあった対応ができるようにしている。			今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）		（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓にあがる野菜を畑で収穫したり、調理の一部にかかわり、出来上がった食事をみんなで食することで楽しい食事が出来るようにしている。一人ひとりに見合った食事量や苦手なもの、禁食に注意して食事をとるようにしている。食材の形態を変えるなどして、出来るだけ苦手意識のないように配慮している。			今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能な状態を維持し、入浴好きな人は毎日入り、拒否のある人には無理強いすることなく、調子の良い時に入っていただけるようにしている。　同性介護を望む方には出来得るかぎり希望に添えるようにしている。個々の好み（湯の温度や入浴方法　時間等）を把握し、希望に沿った入浴が出来るようにしている。			今後も継続して実施して行く。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々のできること、できないこと、また、得意なことや興味のあることを把握し、参加してもらえるような場面を作るようにしている。できた時や、していただいた時には褒めたり、感謝の言葉を伝え、やりがいを感じてもらうようにしている。洗濯干しや、食器拭き等のできることはお手伝いをしてもらっている。			今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事への参加や季節ごとの行事（花見等）、誕生日会の外食など出来るだけ外へ出る機会を企画している。また場所的には車椅子の方も可能な場所を探すようにしている。せせらぎ公園で花見をし、その公園内のカフェでお茶をしたりしている。			今後も継続して実施して行く。
（4）安心と安全を支える支援						
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの違和感を常に持ち、出入りが自由な環境のなかでゆったりと過ごしていただけるようにしている。ひとりで靴を履きかえ、外の花に水をあげたりする人や別ユニットに行かれる人がいるが、職員はその所在を把握していている。また別ユニットの職員との連携をとり、出かけていった利用者を快く受け入れてもらえるようにしている。また外へ出られた場合には必要以上に接近しないようにさりげなく対応している。			今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による調査で避難路・消火設備等が整っていることが確認されている。また事業者は地元の夜警に参加して防火の呼びかけに協力し、地域との連携を図るようにしている。		○	運営推進委員会で地域や家族の協力が得られるように働きかけていく。職員の中には消防団に所属しているものがおり、その知識を他の職員にも広げてもらうようにしいていく。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）		（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入し、不足している時には好みに応じたものや摂りやすい物で補うようにしている。主食をパンに替えたり、麺類にしてみたりを物をかえてみたりしている。また人によっては形状をかえて食せるようにしている。			今後も継続して実施して行く。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり						
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家庭を連想するうように特別なものは置かず、窓からは自然の明かりが差し込むようにしている。台所は対面キッチンで空間を遮断することなく利用者と職員が会話を楽しみながら一緒にできる事は手伝って頂けるようなつくりにしている。共有スペースにはイベントの写真や作品、季節ごとの花が飾ってある。			今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時には今まで本人が使用していた物や慣れているものを運んでもらい馴染みのある物の中での生活ができるように話をしている。仏壇を置いている利用者もいる。			今後も継続して実施して行く。

自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。

○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあすなろ弐番館
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	223-0058 横浜市港北区新吉田東６－１５－１４
記入者名 （管理者）	山越加代子
記入日	平成 １９ 年 １１ 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業者が地元の住民で、昔からの地域との連携を大切にしながらホームが地域のなかにとけこんだものになるよう理念を作り上げている。	○	ホームの理念に「人々（地域）とのふれあい大切にします」と謳っている。
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」というものを意識して業務にあたり、内部研修の中でも再確認しあうようにしている。	○	玄関の入り口と事務所内に理念を掲示して、常に目にできるようにしている。
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所内にある研修室を利用し、認知症についての研修やホーム見学会を開いている。	○	事業者は自治会の会合や催事にも出席し、ホームでの催事にも参加を呼びかけている。また地域との合同開催によるイベント「あすなろ祭」を企画・実施している。
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゴミ捨てや散歩等の際には挨拶を交わし、洗濯物を干したり、取り込んだりする時にも、庭先で挨拶を交わしている。 また入居者の中には地老人会に加入している人もいて、近所の方が老人会への送迎をして下さっている。		
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	あすなろ自体が町内会に参加していて回覧板も届いている。地域の情報を知る事ができ、盆踊りに参加している。またホームの竹の子堀りに地元の子供たちを招待したりしている。地元の小学校と交流会があり利用者とのふれあいができている。	○	運営推進委員会の設置では地域の方にメンバーになって頂いており、ホームの現状などを理解している。更には貴重なご意見やアドバイスをいただけるようになっている。
項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）

6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの研修室を利用し、横浜市の委託事業を受け地域住民への認知症予防の勉強会を開いている。 介護職以外の研修生の受け入れもしている。	○	地域の自治会・民生委員との連携をとり、高齢者問題の相談窓口となれるようにしていきたいと考えている。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価となるが、常勤・非常勤に関わらず自己評価に取り組んだ。	○	自己評価は今後も常勤・非常勤に関係なく取り組んでいきたい。
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回運営推進会議を平成19年8月9日（木） 第2回目を平成19年10月11日（木）に開催した。	○	委員会ででた意見・アドバイス等を吸い上げ、ホームの質の向上に活かしていきたい。
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の内容をオープンにしており、市町村の理解を受けていると考える。すでに開所している「グループホームあすなろ」に隣接しての弐番館開所の許可も理解されているからだと理解している。	○	港北区はホームの見学に来てくれており、ホーム開所にあたり区長の来訪もあり祝辞をいただいている。
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員に対する研修会を開いている。事業者・管理者はグループホーム連絡会等の外部研修にも出席し、ご家族様の相談にのれるようにしている。	○	家族会で情報提供させていただいた後で、後見人制度を利用する方向で動かれているご家族がいらっしゃる。
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて職員に周知してもらえるようにしている。事業者・管理者はそのようなことが起きないように職員のストレスケアにも注意している。	○	職員の相談にのってもらえるようにスーパーバイザーを置いている。
項　目		**取り組みの事実** **（実施している内容・実施していない内容）**	**（○印）**	**取り組んでいきたい内容** **（すでに取り組んでいることも含む）**
4．理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明の説明をし、ホームでの対応できる範囲や困難な場合も合わせて説明し納得していただいている。	○	ホームでの対応が困難な場合とはどんな時なのかを壱番館で起きた例をあげて説明し、そのような場合になった時の対応策（特別養護老人ホーム等の申込等）のを伝えて、理解していただいている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は出来得る限り利用者に接するようにしてご本人の思いを察知するようにしている。気になることがあった時には職員に伝えケアに活かすようにしている。また意見箱を設けて自由に個々に思いを外部に伝えられるようにしている。	○	各職員も利用者の日常の言動に留意して思いを知るようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の毎月の様子やホームからのお知らせ等を月次報告書に仕上げて家族に送付している。	○	日常生活や行事での写真をホーム内に掲示していつでも見て頂けるようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を各ユニット毎に開き、家族の意見を聞けるようにしている。また、意見箱を用意して自由に意見・苦情を受けられるようにしている。	○	管理者・職員は日頃から家族と話やすい雰囲気作りを心がけている。また管理者は希望のある家族と連絡ノートでのやりとりをしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月をフロアー会議・常勤者会議で職員からの意見を吸いあげるようにしている。	○	職員からの要望がある場合は稟議書によって意見を出せるようにしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は原則としてシフトには入らず、昼夜を問わず柔軟な対応ができるようにしている。また調理専門の職員を配置し、手厚く介護ができるようにしている。	○	行事等がある時にはシフト以外の職員にも声かけして少しでも手厚いケアができるように協力を仰いでいる。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット毎に職員を固定して、居室担当を設け利用者との職員の馴染みの関係を作れるようにしている。	○	人事異動がある時は、利用者へのダメージを最小限にした異動を考えていきたい。
項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	常勤・非常勤に関わらず研修に参加することを薦め、研修案		全職員を対象に介護教員の有資格者による定期的な内

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内等が届いたときには掲示して希望者はいつでも参加できるようにしている。また研修に参加した時にはその報告書を提出してもらい、参加できなかった職員にも情報が共有できるようにしている。	○	部研修を開いている。
20	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。	○	今後は他施設との交換研修を実施していきたい。
21	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各ユニット毎に職員の休憩室を設け、気分転換を図れるようにしている。個人的に相談事や悩みを打ち明けられた時や様子がいつもと違うと感じた時には個別に職場内外で話す機会を設けている。	○	休憩室がよりくつろげる場所となるように職員の要望をきいている。
22	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は全職員に対し、各種資格取得の奨励をしている。資格手当を支給することで励みになるようにしている。	○	勤続年数に応じて報奨する機会を予定している。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者・計画作成担当者は、自宅を訪問するかホームにお越しいただき本人やご家族と面談しそれぞれの話を聞きアセスメントしている。この時の会話の中から本人や家族の思いに気づくよう努力している。		
24	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでの家族の苦悩を受け止め、労うことで少しでも家族がこころやすまるようにし、罪悪感を持たないようにしている。	○	利用者がホームでの生活に慣れるまで、特に意識して話しかけその中で不安になっていることや困っていることに気づくようにしていき、家族へはこまめに様子を知らせるようにしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り詳しい状況を把握できるように家族と信頼関係を結べるような話し合いの場を持ち、支援の方向を見極めるようにしている。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は前もって利用者のアセスメントを読み把握しておき、本人に違和感のないような接し方をするよう努めている。また入居当初は家族の面会を多めにして本人の不安感等を最小限にできるよう協力を得るようにしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対して人生の先輩として尊敬の念を持って接するよう心掛けていて、理念に掲げられている「できることはしていただきます」の通り自信をもって生活できるようにしている。	○	季節の行事や食事作りの時などに利用者から話を聞かせてもらうようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月次報告書や面会時に利用者の日々の様子を伝え、職員だけでなく家族との共通認識を持てるようにしている。	○	季節ごとの衣類や寝具の入れ替えなどを家族に依頼し、できるだけ家族にも本人を支えているという気持ちを持ってもらえるようにしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会をできるだけ多くしてもらえるように、家族会や行事を企画している。	○	あすなろ祭では模擬店や和太鼓やトランペットなどのボランティアによる出し物も入れて利用者と家族が一緒に楽しめる時間を過ごせるようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで加入していた老人会や趣味の会にも入居後も続けて加入している利用者がいる。他にも美容室は今までのところに出かける利用者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者間の関係に留意して、利用者同士が円満な人間関係がもてるようにしている。	○	利用者間で問題が起きそうな気配がある時は職員が間に入り、問題の回避にあたるようにしている。また場合によっては座席をかえたりしている。
項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも相談を受ける窓口となっていることを伝えている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の本人の言動から本人の思いに気づき、出来得る限り本人の希望する生活ができるように努めている。	○	毎日の個人介護記録を記入する際も本人の心の奥にある思いに気がつくようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり実施しているアセスメントで生活歴の情報をもらっているが、入居後も普段の会話の中や家族との会話の中でより深く今までの生活歴や生き方を知る事が出来るように努めている。	○	本人の生きてきた時代背景や生活環境を理解したうえで本人にとってできる限り違和感のない生活ができるようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを基本に過ごしていただき、その過ごし方の中からその日の体調の変化等を把握することで現状を把握できるように努めている。	○	利用者のその日の体調や精神面も含めた状況を察知し、居室内で休んでいただいたり、散歩にでて気分転換を促したりしている。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族との面談ででた家族の思いや・日頃の本人の言動からみえてくる本人の思いをケアカンファレンスで話しあい、そこで出てきた意見や意向を含めた計画作成をしている。	○	職員は利用者の日常生活での気づきが大切であることを認識しそれを活かした計画作成を行っているし、これからも行っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は常に職員が閲覧できるようにしてあり、その計画に沿ってのケアに不都合が生じるときはその都度改めて変更をしていくようにしている。	○	入院等により利用者の状況に変化が起きた時にはその都度、現状の計画に変更するようにしている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の記録を個別介護記録に記入している。日常とは違ったことがあった場合や特に気になる言動があった時には職員間で申し送りをしてさらには連絡ノートに記録し全職員で情報の共有をするようにしている。	○	介護記録やフロアー会議であがった意見を基にして、介護計画の見直しに活かしている。

３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況が重度化したり、終末期になった時を考慮した対応ができるように、医療連携体制を整えて家族や本人の暮らしができるようにしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会や小学校・地域のボランティアとの交流して支援している。	○	ボランティアの協力で茶道会を開いたり、町内会の盆踊りや老人会に参加したりしている。また近くの小学校と交流があり、小学生の訪問を受けて日々の生活に色がつくようにしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域ケアプラザや在宅時のケアマネージャーとの連絡をとり、本人の希望に応じたサービスが受けられるようにしている。	○	家族にも話をして介護保険外のディサービスやヘルパー等の利用を検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは壱番館からのつながりで情報提供を受けている。また運営推進委員会のメンバーにもなってもらっている。	○	壱番館と同様に弐番館としても地域のケアカンファレンスに参加させてもらい情報を積極的に受けらるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームに往診医はいるが入居にあたり必ずしもかかりつけ医を変更する必要はなく本人や家族の希望する医療機関への受診が可能になっている。	○	入居前の医療機関へ今も通院している利用者がいる。
項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームドクターは認知症専門医ではないが、在宅医療に熱心な医師で多くのケースをみていて適切な指示や助言をしてくれる。また職員からの質問や不安に思うことにも答えてくれている。	○	症状の進行の具合によって適切な指示をもらい場合によっては他の医療機関への紹介をしてもらっている。
	○看護職との協働	訪問看護ステーションと契約していて、日常の健康管理や医		医療連携体制を整えている。

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	療面での相談にアドバイスをもらっている。	○	
46	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携医療機関のソーシャルワーカーとは壱番館の開所時から懇意にさせていただいており、早期退院へ向けて担当医師やリハビリ担当者との話会いの機会を設けてもらうなどをしている。また、退院後の生活での相談ののってもらったりしている。	○	利用者が入院した時にはできる限り頻繁に見舞いに行くようにしており、入院中の利用者が安心して治療を受け早期回復と機能低下を防ぐようにしている。
47	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	弐番館ではまだ終末期を迎え看取った事例がないが、ホームとして対応し得る支援方法を明確にし医師と家族で話し合いその対応を検討している。	○	医師・家族・職員が同席し話し合いをし、本人や家族にとって最良と思われる支援方法を考え、全員が方針を共有できるようにしている。
48	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の思いを最優先として随時家族とは話会い、意思を確認しながらかかりつけ医や訪問看護との連携のもと終末期を迎えられるように取り組んでいる。	○	まだ看取りを経験したことがないが、事業所としてのできること・できないことを把握し、家族の協力・かかりつけ医の協力・職員の協力が一つの力となって看取れるようにしていきたい。
49	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい生活に少しでも違和感がないように、他施設等に移る際にはこちらでの情報提供を行うよにしている。		
項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1．その人らしい暮らしの支援

（1）一人ひとりの尊重

	○プライバシーの確保の徹底	内部研修でテーマとして取り上げ常に職員にその意識をも		常に職員が認識しているように定期的に研修を開くように

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	つようにして、個人情報の漏えいには十分注意するようにしている。ケアの場面でのトイレ介助の際にはプライバシータオルというものを用意している。	○	している。また外部研修にも参加するように勧めている。また介護の現場でも声かけする時には注意するようにしていく。さらには現場を離れた場所での会話にも注意を払うよう心掛けていく。
51	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の利用者のできること・できないことを把握し、更にはしたいことに気づきそれをできる場面を作るようにしている。		
52	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムや思いを尊重し、できる限りご本人にあった対応ができるようにしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居前に行っていた美容院に行かれる方もいる。また利用者の好みに応じた清潔な身だしなみができるようにしている。	○	家族の協力もいただき今まで通っていた美容院へ出かける利用者もいる。誕生会や外出時には普段とは違ったおしゃれ着を着てもらったりしている。
54	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓にあがる野菜を畑で収穫したり、調理の一部にかかわり、出来上がった食事をみんなで食することで楽しい食事が出来るようにしている。	○	一人ひとりに見合った食事量や苦手なもの、禁食に注意して食事をとるようにしている。食材の形態を変えるなどして、出来るだけ苦手意識のないように配慮している。
55	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者個々の嗜好を把握し、出来得る限り生活の一部として楽しめるよう配慮している。	○	夕飯前にワインを飲まれる方がいる。
項　目		**取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）**	**（○印）**	**取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）**
56	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄リズムを把握し、訴えの少ない人に対してもこちらからの声かけで失敗に至らないよう努力している。	○	出来得る限り、おむつの着用を避け、通常の下着で過ごせるようにしている。
	○入浴を楽しむことができる支援	毎日入浴可能な状態を維持し、入浴好きな人は毎日入り、		個々の好み（湯の温度や入浴方法　時間等）を把握し、希

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	拒否のある人には無理強いすることなく、調子の良い時に入っていただけるようにしている。 同性介護を望む方には出来得るかぎり希望に添えるようにしている。	○	望に沿った入浴が出来るようにしている。
58	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの時間の過ごし方を大切にしながらも、アクティビティの工夫をし、ゆったりと楽しく過ごせるようにして、気持のよい休息を取っていただけるようにしている。	○	夜、安眠できるよう午前中の散歩を取り入れている。眠れないとの訴えがある時には、温かい飲み物を少し飲んでいただき落ち着いて眠れるようにしている。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々のできること、できないこと、また、得意なことや興味のあることを把握し、参加してもらえるような場面を作るようにしている。できた時や、していただいた時には褒めたり、感謝の言葉を伝え、やりがいを感じてもらうようにしている。	○	洗濯干しや、食器拭き等のできることはお手伝いをしてもらっている。
60	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々に財布を用意し散歩の途中で近くのコンビニに寄った際に好きなものを買ったりできるようにしている。またイベントのあすなろ祭では財布を持ち、すきな模擬店で買い物や遊びができるようにしている。	○	お預かり金の中から千円を個人財布に入れている。
61	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事への参加や季節ごとの行事（花見等）、誕生日会の外食など出来るだけ外へ出る機会を企画している。また場所的には車椅子の方も可能な場所を探すようにしている。	○	せせらぎ公園で花見をし、その公園内のカフェでお茶をしたりしている。
62	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族や友人との外出には何のさまたげもなく、積極的に奨励している。	○	家族と墓参りに出かける利用者もいる。
項　目		**取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）**	**（○印）**	**取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）**
63	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションの一つにも考えて家族や友人・知人へ季節の挨拶文を書いていただいている。また家族からの手紙も届き、その返信を書いたりとやり取りが自由にできるようにしている。電話の要望にはユニット毎においてある携帯電話を利用している。家族からも電話が入ると繋ぎ話をしていただいている。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	訪問時間・面会時間等の決まりを設けることなく、いつでも訪問していただけるようにしている。		入居当初等、本人もご家族も不安な時期に泊まられる家族もいる。

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	問していただけるようにしている。	○	族もいる。
（4）安心と安全を支える支援				
65	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でテーマとして取り上げ職員に周知徹底をしている。ケアの方法についてはフロアー会議・ケアカンファレンスで確認している。	○	身体拘束委員会を設けているメンバーに一般職員も加え、日常のケアに身体拘束にあたるものがないかを検討していく。
66	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの違和感を常に持ち、出入りが自由な環境のなかでゆったりと過ごしていただけるようにしている。	○	ひとりで靴を履きかえ、外の花に水をあげたりする人や別ユニットに行かれる人がいるが、職員はその所在を把握していている。また別ユニットの職員との連携をとり、出かけていった利用者を快く受け入れてもらえるようにしている。また外へ出られた場合には必要以上に接近しないようにさりげなく対応している。
67	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りの大切さを常に認識してホールの職員が空にならないように職員間での声かけを大事にしている。夜間帯では巡回をこまめに行うことで安全に配慮している。	○	記録の業務を行う場所や時間帯を再考しホールでの職員の手薄にならないようにしていきたい。
68	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の状況（理解度等）に応じて保管するものとそうでないものとを分けている。また保管するほどでもないと判断したものでも、他の利用者に危険を及ぼしそうなものはその都度検討している。	○	利用者に「取り上げられた」という思いを抱かせないような対応ができるようにしていきたい。
69	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を全職員間で共有して再発に努めている。また事故にいたらなかったケースでも危ないと感じたことや思ったことも連絡ノートに記入することで他の職員へも知らせ情報（危機感）を共有するようにしている。		
項　目		**取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）**	**（○印）**	**取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）**
70	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法を受講している職員がいる。緊急時の対応法は掲示し皆にすぐにわかるようにしている。	○	まだ受講していない職員にむけて全職員が受講できるようにこの講習を企画している。
	○災害対策	消防署による調査で避難路・消火設備等が整っていることが		運営推進委員会で地域や家族の協力が得られるように働

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	確認されている。また事業者は地元の夜警に参加して防火の呼びかけに協力し、地域との連携を図るようにしている。	○	きかけていく。職員の中には消防団に所属しているものがおり、その知識を他の職員にも広げてもらうようにしいていく。
72	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者個々の状況から起こり得るリスクについて家族と話合い、時には往診医の同席も依頼し説明をする機会を設けている。その上で持てる力を活かしたゆったりとした生活ができるようにしている。	○	家族と話し合うことや専門的な意見を聞くことで利用者本人への拘束がなくなるようにしていきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い普段との違いを把握し、さらには排泄状況や食欲の有無・顔色・元気の有無からも体調の変化や異変を見逃さないようにしている。	○	変化がみられた時はホームドクターに連絡し指示や往診をお願いしている。ドクターは24時間いつでも対応してくれる。
74	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々に配薬箱を用意してあり、その箱に薬の作用や注意点等を記している。服薬は一人づつに渡し、他と間違えることのないように注意し完全に飲むのを確認している。	○	配薬・与薬の両方を含めた「誤薬ゼロ」をスローガンに掲げて気をつけている。
75	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者の不穏になる原因の一つに排便状況があることを知りそれを防ぐために繊維質の食物を摂っていただいたり、起床時には牛乳を提供している。	○	チェック表をつけ排便状況を把握し、便秘傾向の方には特に散歩や出来る範囲での体操をしていただいたりしている。
76	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促し、自分で可能な方は自分でしていただき介助が必要な方にはお手伝いをして口腔ケアには注意している。義歯は就寝前に洗浄剤を使い清潔を保つようにしている。		
項　目		**取り組みの事実** **（実施している内容・実施していない内容）**	**（○印）**	**取り組んでいきたい内容** **（すでに取り組んでいることも含む）**
77	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入し、不足している時には好みに応じたものや摂りやすい物で補うようにしている。	○	主食をパンに替えたり、麺類にしてみたりを物をかえてみたりしている。また人によっては形状をかえて食せるようにしている。
	○感染症予防	予防策をマニュアル化している。時期的に流行するものに対		利用者・職員・外部からの人も対象に入館する際にはウェ

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	してはその都度、通達し予防に努めている。インフルエンザ予防接種は職員・利用者とも受けるようにしている。	○	ルバス等の消毒用薬剤で手の消毒をしてから入るようにしている。また手洗いの徹底をし拭き取りにはペーパータオルを使用をしている。
79	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・布巾・調理器具の清潔を保持するための方法を決めている。食材は日付を記す事により新鮮かつ安全な期限内での使用するようにし、期限切れのものは処分している。また衛星管理局の協力を得て適切なアドバイスや情報をえるようにしている。	○	衛生チェック表を作り日々の作業の終わりに終了チェックを入れるようにしている。そうすることで衛生管理の徹底を図っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1)居心地のよい環境づくり**				
80	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りを囲うような事はせず、どこから見られてもよいように花や木を植えている。また目の前の畑では作物の成長の様子が見える。	○	ホーム前にある竹林では地域の子供たちが竹の子堀りをし、畑で採れたものを近所の人におすそ分けしたりしている。
81	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家庭を連想するうように特別なものは置かず、窓からは自然の明かりが差し込むようにしている。台所は対面キッチンで空間を遮断することなく利用者と職員が会話を楽しみながら一緒にできる事は手伝って頂けるようなつくりにしている。	○	共有スペースにはイベントの写真や作品、季節ごとの花が飾ってある。
82	**○共用空間における一人ひとりの居場所づくり** 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3個の丸・四角のテーブルがあり、それぞれを隣通しに並べたり離したりして空間をつくり自由に作ることができるようにしている。ソファーも用意してありそこに仲間と座ってテレビを観たりできる。		
項　目		**取り組みの事実** **(実施している内容・実施していない内容)**	**(○印)**	**取り組んでいきたい内容** **(すでに取り組んでいることも含む)**
83	**○居心地よく過ごせる居室の配慮** 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時には今まで本人が使用していた物や慣れているものを運んでもらい馴染みのある物の中での生活ができるように話をしている。	○	仏壇を置いている利用者もいる。
	○換気・空調の配慮	天気の良い時には空調設備に頼らず自然の風をいれるよう		臭いの気になる場所では換気扇を回し匂いがこもらないよ

84	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	にしている。空調設備を使用するときは外気温との差に気をつけ体調に影響のないようにしている。	○	うにしている。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーにしてあり、壁には手摺がついているのでつかまって歩くことができる。廊下の幅を広くしてあり、車椅子同士で行き交う事も可能な幅である。車椅子対応のトイレは十分な広さがあり窮屈さを感じさせないようにしている。	○	別ユニットに行くのに階段の他にエレベーターも設置し車椅子での昇降が出来るようにしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者個々の認識力に応じてトイレ等に誘導している。	○	トイレと表示することでトイレの場所が分かり自分で行かれている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に芝生をはり、緑の庭にして花を植えたプランターを周りに置いて水やりや草取りをしたりできる。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

建物の前にある畑を庭のようにして散歩に出られるようにしている。またそこで作業している人と一緒に畑の草取りや収穫を体験してもらったりしている。さらにはそこで採れた野菜を食材として利用している。これらのことから、畑の野菜や植えてある果実・花から季節感を感じ収穫の喜びを感じていただけるようにしている。　外部からのボランティアの協力をいただき、茶道会を開き普段とは違った場面を作っている。